

# 薬用植物園かわらばん

いま、こんな草木も楽しめますよ！  
草木に囲まれ心も体もリフレッシュ・・・



2023年  
12月7日  
第157号



## アオギリ (アオイ科)

今、管理棟前で、剪定された枝に、裂けた果実と種子が付いています。銘板ではアオギリ科と表示されていますが、もう古くなっていて、現在ではアオイ科に分類されています。中医学では、樹皮からゴドウハクヒ（梧桐白皮）、根からゴドウコン（梧桐根）、花からゴドウカ（梧桐花）、種子からゴドウシ（梧桐子）、葉からゴドウヨウ（梧桐葉）と、さまざまな生薬の原料となり、樹皮が活血通経を目的に、種子と花がそれぞれ清熱解毒を目的に、樹皮、根、葉が祛風除湿を目的に、種子が順気と胃、止血を目的に利用されます。日本では梧桐子が民間薬として健胃、止瀉を目的に使用されていますが、その耐火性から、もっぱら庭木や街路樹でしょうか。

## マユハケオモト (ヒガンバナ科)

今、温室の中で花が咲いています。その属名から、ハエマンサスという名の園芸植物として流通しています。鱗茎が生薬のコジラン（虎耳蘭）となり、中医学では解毒消腫を目的に外用で使用されますが、有毒とされ、内用はされませんが、「虎耳蘭」という名称は、イワタバコ科のオオイワギリソウや、アヤメ科のトラユリの中国語での植物の別名として使用されるので、混同に注意する必要があります。南アフリカでは、鱗茎と根を慢性的な咳に対する民間薬として利用されていたそうです。でも、成分としてリコリンというアルカロイドを含み、毒性があるので、内服はおすすめできませんが。